

## 学校経営のポイント

### “校務分掌”組織・運営の定期点検

若井 彌一

何の組織でも一般的に言えることであるが、組織成員が当該組織の基本的任務や役割を十分に理解することなく、漫然と職務・業務を遂行しているような状態が続くと、その組織は、場合によっては存亡の危機に陥る事態になったり、それほどではなくても手痛い社会的批判にさらされる羽目になる。

#### 無自覚な職務遂行は組織の危機を招く

各学校の校務を効率的に処理するという目的のために設置されている校務分掌組織の場合も、その例外ではない。

校務分掌組織の一部が極端な機能不全の状態になったり、全体として不良状態になった場合には、学校自体が地域社会の信用を失い、私立学校の場合には「経営の危機」に遭遇したり、高等学校の場合には募集定員に応募者（受験者）の数が達しない、いわゆる「定員割れ」の事態を招いたりすることになる。

もっとも、定員割れの事態は、他の要因、極端に言えば通学区域の過疎化・少子化に大きく左右されるものであることを指摘しておかなくてはならない。

機能不全（部分的であれ、全体的であれ）に陥っていることが判明したとしても、すぐに効果的な対処の仕方が検討・確認され、実行に移されるとは限らない。

学校経営と企業経営の違いを考慮に入れたとしても、たとえば日産自動車（株）のような短期間の経営改善はきわめて希少な事例であって、一路破産状態に向かっていることに気づいた会社の多くがカルロス・ゴーン率いる日産自動車のような「復活」を遂げられるわけではない。

点検作業が遅れば遅れるだけ、長引けば長引くだけ、組織体としての「危機」の程度は深刻なもの

となるのは解説を要しまし。

#### 実施したい“校務分掌”の定期点検

先に「各学校の校務を効率的に処理するという目的のために設置されている校務分掌組織」と述べたが、この場合の「校務」については、広狭2つの解釈・理解の仕方があることについては知られているとおりである。

広狭どちらの解釈・理解をすとしても、校務分掌組織が機能不全の状態に陥らないようにするためには、校務分掌の組織・運営についての点検が不可欠である。機能不全や危機の程度を軽度のうちに食い止めるためには、機能不全や危機が実感されたり、外部からの批判を招いたりしたときに、思いついたようにやる（臨時点検）のではなく、定期点検が必要とされる。

「たかが校務分掌ごとき、定期点検などと大げさに構えることはないのでは…」と思われる向きもあられよう。前例踏襲かつ無点検でも、必要最低限の法的責任（responsibility）に対応する学校経営は可能かもしれないが、時代の要請となっているアカウントビリティ（accountability）に対応するレベルの学校経営を実現することは困難であろう。点検期間については、各学校でご検討いただきたい。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

#### キーワードは“教師”と“子ども”！ “読本シリーズ”最新刊 好評発売中

- 『発展的学習の指導の手引き』高階玲治編・2100円
- 『子どもの学力読本』新井郁男編・2100円
- 『指導力不足教員読本』八尾坂修編・2100円

本紙はホームページでも閲覧できます  
<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>

10月の研修図書

好評発売中！ 新教育課程具体化の基本マニュアル

教育開発研究所刊

学校5日制の教育課程をどう編成するか、具体的方法をわかりやすく提示！〔柴田義松編〕

## よくわかる新教育課程実践マニュアル

A5判 230頁・定価2,310円

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）